

農業高校で学んだ専門学習に関する基礎的な知識や技術を農業や社会の発展に生かすためにはどうしたらよいか。



北海道ブロック 北海道旭川農業高等学校

生活科学科	3年	濁川美穂
生活科学科	3年	宮野桃
農業科学科	2年	小玉紗瑛
食品科学科	2年	有村優季

1 はじめに

(1) 旭川市の紹介

私たちが住む旭川市は北緯43度、東経142度に位置し、人口約36万人の北海道第2の都市です。北海道の屋根と呼ばれる大雪連峰の麓、石狩川の恵みを受け、「水と緑に輝く北の拠点・旭川」として、北海道内初の中核市となり北北海道（道北・道東地域）の流通拠点として発展を遂げています。

旭川の気象は年平均気温が6.9℃、8月平均最高気温が26.3℃、1月平均最低気温が-12.3℃、降水量1,042mm、年間日照時間が約1,590時間と夏は冷涼、冬は厳寒の気候の中、農業粗生産額146億円（全国市町村中89位）の農業を基幹産業としたまちです。

(2) 旭川市の農業概要

旭川市は耕地面積は11,570ha、うち水田が6,430ha、畑等が5,140haです。畑のうち野菜が367ha、花卉9haが作付けされるなど、広大な農地と北海道でも比較的恵まれた気候を活かし、稲作、施設野菜、花卉、畑作、果樹、畜産、酪農と様々な農業が行なわれています。中でも水稲は、生産量・作付面積が全国でもトップクラスで北海道随一の米産地となっており、食味・品質の面でも消費者から高い評価を得ています。また、施設野菜の生産も大変盛んでありトマト、ホウレンソウ、ピーマン、イチゴ、ネギなど50品目以上が生産されています。特に野菜は歴史が古く、ピーマン、ホウレンソウ、ネギなどの施設野菜は道内最大の産地となっています。



写真2 一面の畑、春の畑準備

農家戸数は1,647戸（H22）うち専業・一種兼業農家は1,058戸（64%）、

販売農家一戸当り経営耕地面積は6.96 ha となっています。多くの農家では恵まれた立地条件を活かして、米と野菜や花を合理的に組み合わせた複合経営で収益性の高い品目を複数作付けし、労働力バランスを考えた足腰の強い農業経営に取り組んでいます。

また、食の安全・安心への高まりと環境への配慮から、農薬の使用を極力抑え、土づくりに力を注いだクリーン農業を進めており、旭川市の重要なセールスポイントとして他産地との差別化・ブランド化が進められています。

(3) 北海道ブロック連盟の紹介

北海道ブロックは北・東・南北海道の3地域連盟（県連盟扱い）に分けられています。私たち旭川農業高校は、昭和48年度から固定して北海道ブロック連盟会長校と北北海道連盟会長校を兼務しており、会長校としての自覚と責任を持ってこれまでの活動に取り組んできました。また最大76校、14,000名を数えた加盟校・クラブ員数も現在は31校、4,629名と減少していますが、ネットワークを強め、フットワークを高めてチームワーク良く、毎日の農ク活動に各校お互い切磋琢磨して積極的に取り組んでいます。

2 学校の概要と本校農業クラブ員の現状

(1) 北海道旭川農業高等学校の概要



私たちの学校は大正12年に開校以来、幾多の変遷を経て現在は農業科学科、食品科学科、森林科学科、生活科学科の4学科となり現在に至っています。実習地総面積は約18haと演習林実習地面積約242haを保有し、広大な実習地と恵まれた環境の中で農業生産、食品加工、製品販売、そして環境学習活動に取り組んでいます。

(2) 本校クラブ員の現状

本校のクラブ員数は現在481名です。男女比は男子が175名、女子が306名と女子が約6割を占めています。このうち保護者が農業自営しているクラブ員は28名で、さらにそのうちの農業後継を予定しているクラブ員はたったの17名であり、その割合は全クラブ員のわずか3.5%と北海道の農業高校ではあまり例のない都市型農業高校です。



写真4 生活科学科草花班の花フェスタ参加

クラブ員も『農業に興味を強く持っている』、『農業後継者として多くのことを学びたい』というよりは、『難しい勉強よりも、楽しく農業を学んでみるのも良いかも知れない』と考えてくるクラブ員も少なくないのが現状で、農業技術や知識をしっかりと身につけるよりも農業経験を通して社会性や人間性を磨くことを求めている傾向があります。

3. 分科会テーマ

農業クラブは、長い歴史を持ち専門知識や技術を活かし地域に根ざした素晴らしい活動を行っています。『農業高校で学んだ専門学習に関する基礎的な知識や技術を農業や社会の発展に生かすためにはどうしたらよいか。』というテーマから私たちが今、取り組んでいることはどのような活動か、農業クラブ員、農業高校生としてこれからできる取り組みは何かについてまとめてみることにしました。

それでは、私たちの取り組みと考えを発表したいと思います。

(1) プロジェクト活動の充実



写真5 小学生田植え・収穫体験

農業クラブの活動をとおして、クラブ員だけではなく、私たちの次の世代を担う子ども達の世代に『農業の良さや魅力』を感じてもらうことが大切なのではないでしょうか。そこで私たちはプロジェクト活動や課題研究や総合実習の授業、収穫感謝祭などの農ク事業の中で幼稚園や保育所、小学生達への食育活動を展開しています。子ども達の田植え体験などで見られる『とびっきりの笑顔』

は私たちの喜びにも変わりますし、農業の魅力そのものだと感じることができる活動です。また、旭川はかつて「木の町」と呼ばれるほど木工関連産業が発達していました。そこで森林科学科は近隣の幼稚園児を対象に「もくもく体験交流会」を実施しており、幼稚園児と一緒に植樹や下枝払い等の管理作業やキーホルダー制作等の木材加工をとおして指導性の向上に努めています。また、生活科学科は園芸福祉交流プログラムを実施する「コミュニティーガーデン」を学校内に設置し、養護老人ホームや知的障害者施設の方を招き科学的に福祉交流を行っています。

(2) 先輩から後輩へ繋ぐ活動

①実績発表大会

先輩達の日々の記録が好成績を支えていると考え「活動記録簿展示会」を実施。何度も手に触れ学習できる機会を増やすことで意識が高まりました。

②意見発表大会

昭和28年創刊の農ク機関誌「若い芽」を意見発表大会で活用。さらに4月以降におこなわれていたクラス予選を3月に実施したことで校内予選の内容が充実。また、演劇部の指導によって発声、発表力が向上しました。

③技術競技大会

校内大会の前に朝学習の時間を利用して毎日小テストを実施。代表生徒を対象に、昨年



写真6 活動記録簿展示会

全国大会に出場したクラブ員が模擬問題を作成し勉強会を開催しました。また、本校の先輩には鑑定競技で2年連続全国大会最優秀賞を受賞した篠原猛志さんがおり、鑑定競技の学習方法や大会での心構えを指導していただきました。

(3) 情報を発信し、地域との関わりを深める

さまざまな情報は「農クかわらばん」や「ホームページ」で速やかに発信しています。昨年はクラブ員への情報提供と農ク活動に興味を持ってもらうために「農クかわらばん」を毎週発行しました。また、北海道連盟事務局として「道連通信」を発行。一昨年募集した道連のゆるキャラ「ほっかいもー」が完成し、世間に知っていただくために各種イベントに積極的に参加しています。地域の方々とともに



写真7 「ほっかいもー」イベント参加

盛り上げてきた永山屯田祭りでは行灯を改修。太鼓の叩き手もクラブ員から募集し多数の応募がありました。ボランティアには、多くのクラブ員が参加し地域と密着した活動をしています。各学科は様々な活動を通してクラブ員の活躍を地域に伝えています。特に生活科学科は北海道農業高校生ガーデニングコンテストで5連覇を達成。昨年から実施している旭農レストランはお世話になっている地域の方、保護者をお招きして4回開催し私達の活動を知ってもらうことができました。また、今年度も多くの報道機関に本校の活動を取り上げてもらい活動の発信につとめました。

4 成果、まとめ

このように私たち執行部の取り組みによって、クラブ員の意識も上がり、多くの農ク活動がさらに充実し、活動が良い循環となってクラブ員の活動を進展させることができました。今後もクラブ員に根付いた農ク活動を展開し頑張っていくことで農業への興味・関心を高め、今まで学んだ知識や技術を農業や社会の発展に生かしていくことができるのではないのでしょうか。

5 さいごに

このテーマについては、農業クラブ活動に積極的に取り組んでいる私たちでも、非農家で農業後継を希望していないクラブ員が多い学校では結論や考えをまとめることは大変難しいものでした。農業クラブ活動は、私たちにとって技術や知識の習得、探求心の向上だけではなく、学校生活の充実、進路実現、交流の輪をつくっていくことができる最もやりがいのある活動の1つです。そしてそれが、農業クラブ員が農業の魅力を感じ農業ク



写真8 1年生「農業と環境」の授業風景

ラブ活動の素晴らしさをさらに強く認識できることになるのではないのでしょうか。